



学校だより

みどりの

○考え伝え合う子

○心豊かな子

○元気な子

○やりぬく子

令和5年1月10日

芽が大きく成長する年に

校長 遠藤 昌司

新学期と共に子ども達の元気な姿が学校に戻ってきました。新しい年を迎え、職員一同、新鮮な気持ちで意気込んでいます。

2学期終業式に、冬休み中に心がけて欲しいこととして「安全に過ごす、視野をひろげる」の2つを伝えました。冬季休業中には大きな事故や怪我などはなかったようなので、1つ目を実践してくれた成果だと思えます。また、2つ目は、特に高学年の子ども達に伝えたことでしたが、年末年始で普段と違った過ごし方をしたり、親戚の方などにお会いしたりする機会もあったことと思えます。そのことを通して広がった視野を、「おとな」に成長させることに繋げて欲しいと思っています。

正月の三が日はとても穏やかな陽気で、新しい年を迎えるにあたり、晴れやかな気持ちがいよいよ一層高まるようでした。十二支で言うと今年は卯年、うさぎ年です。うさぎは古来より身近な動物だったようで、世界各国にはうさぎにまつわるさまざまな神話や伝承が残っています。「ウサギとカメ（イソップ童話）」や「因幡の白兎（古事記）」、「カチカチ山」などは、絵本でもおなじみです。お話の中ではどこか狡猾に描かれることが多いですが、うさぎは敏捷で長い耳を持っていることから「情報を早くもらさず収集できる」とか、多産なため戦で勝ち抜いて「子孫繁栄できる」とか、よく跳ねるので「飛躍できる」といったところが戦国武将から好まれ、兜のデザインに取り上げられることも多かったようです。

ちなみに3月3日はうさぎの長い耳から「みみの日」、そこから転じて「うさぎの日」と言われるそうです。

つい先日、最終話を迎えましたが、暮れから「パパと呼ばないで」の再放送が東京MXでありました。もう保護者の皆さんではなく、祖父母の方が懐かしく思われる世代かもしれません。自分は子どもの頃に見た記憶が微かに残っています。当時は子どもが主役の、何かドタバタした面白いドラマといった印象に過ぎなかったのですが、大人になった今見てみると、人情味に溢れたストーリーだったのだと感じ、毎回、温かい気持ちになりながら再放送を楽しんでいました。

子役時代の杉田かおるさんが演じる千春（チー坊）は母親を亡くしますが、石立鉄男さん（故人）演じる叔父が引取るという泣き笑いのあるお話で、高度成長期に差し掛かった昭和40年代の様子がよく表れています。下宿先の大家さん一家までもが「家族」として、そして近所などの大人がみな、チー坊を大事に大事に育て、見守ります。時代背景が異なりますし、そもそもドラマの世界ではありますが、緑野小学校のあるこの地域の子供達も、家庭や地域に育て見守られる、令和の時代ならではの環境に包まれるといいなと思いました。

さて、卯年は、芽を出した植物が伸びていき茎や葉が目に見えて大きく成長する年だともされ、子ども達の成長に重ね合わせるととても縁起の良い年と言えそうです。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。